

どこに問題があるのか：米はロシアに戦争を仕掛けるつもりか？

【訳者注】ロシア系米人 4 人の連名による警告状に、追いかけて、かつてレーガン政権の中枢にいた PCR による警告が出ると、かなり危険な状況だと考えざるをえない。1962 年のキューバ危機の比ではないと言われるのに、メディアはあたかも、何も起こっていないかのように振舞っている。キューバ危機のときの、米ソ（ケネディとフルシチョフ）の理性と正気を、今のアメリカがもっていると期待することはできない。

3 頁に紹介されている、アメリカ民衆の 59% という核戦争支持率は、我々の予想をはるかに上回るのではなかろうか？（共和党員の核戦争支持率は 81%！）サイコパス政府だけでなく、一般人民も大半が、「自分の国でなければ、どこで誰がどんな死に方をしようと構わない」と思っている証拠である。アメリカの兵学校で叩き込まれるという「ウォルフォウイツ主義」（アメリカを超える者は誰も許さない主義）は、一般にも浸透しているということであろう。我々にとって「まさか」が、アメリカでも通用するのではない。ヒロシマに対する恐怖を、アメリカも同じようにもっているわけではない。

Dr. Paul Craig Roberts

Global Research, June 9, 2016

第二次大戦前夜に、アメリカはまだ「大恐慌」の泥沼の中にいて、日本とドイツという正面の敵と向き合っていた。どれほどそれが暗い状況だったとしても、今日の状況と比べれば、問題にならない。

いったい、ワシントン、西側の売春婦メディア、EU、あるいは NATO の誰かで、ロシアに対する、絶えざる軍事的またプロパガンダによる挑発の結果を、考えた者がいるのだろうか？ 西側世界のどこかに、責任ある立場にある者で、「もしロシアが我々を信じたとしたら、どうするのか？ もし我々がロシアに、本気でロシアを攻撃しようとしていると思いきませたとしたら、どうするのか？」と、訊ねるだけの良識ある者がいるのだろうか？ 同じことが中国についても言える。

ホワイトハウスの愚か者と売春メディアの、向こう見ず加減が度を越えて、単なる危険ではなくなってしまった。もしロシア人が、民主党はヒラリー・クリントンを米大統領に選ぶつ

もりだと知ったら、彼らはどう思うだろうか？

ヒラリーは、あまりにも狂った人物で、ロシア大統領を“新しいヒトラー”だと宣言し、彼女の手下であるネオコンの怪物ビクトリア・ヌーランドを通じて、ウクライナの民主的に選ばれた政府の、転覆計画を組織した。ヌーランドは、20年前まで、何世紀もロシアの一部であり続けた、前ロシアの領土に、ワシントンの傀儡政府を据え付けた。

現状では、ロシア政府と人民の中の、素朴な西側びいきの人々でさえ、アメリカはロシアと戦争するつもりだと、確実に思うだろう。

ロシアが、シリアをめぐる、オバマに対して立ち上がって以来、ロシア人は、敵意あるプロパガンダと、彼らの国境での軍事行動を経験してきた。これらの挑発は、ワシントンやそのNATO従僕政府によって、“ロシアの侵略”への応報だとして、正当化されている。ロシアの侵略とは、ロシアが、バルト海、ポーランド、ルーマニアを侵略して、かつてのソビエト帝国を再現しようとしているという、明らかに虚偽の主張にすぎないものである。その東ヨーロッパ部分は、かつてロシアの地方だったジョージア（グルジア）やウクライナと共に、現在はアメリカ帝国に属している。

ロシア人たちは、“ロシアの侵略”というプロパガンダが、ウソだと知っている。このウソの目的は、西側の人々に、ロシアとの戦争を準備させるため以外の何だろうか？

他に説明しようがない。

オバマや、メルケルや、オランダや、キャメロンのような愚か者でも、軍事大国に向かって、今からお前を攻撃するぞという態度を取ることは、この上なく危険だということは理解できるはずである。しかも同時に中国にそう思わせるのは、間違いなく危険である。

明らかに、西側は、地球上の生命を保存する指導力をもつことはできない。

西側全体が、地球惑星に対する殺意を示したとき、どうすることができるのか？

クリントン、ジョージ・W・ブッシュ、そしてオバマの、犯罪政権以前は、ジョン・F・ケネディ以来の米大統領は、ソビエトとの緊張関係を緩和しようとしてきた。ケネディはフルシチョフと協力して、アメリカのミサイルがトルコにつくり出し、ソ連のミサイルがキューバにつくり出した、緊張を和らげようとしてきた。ニクソン大統領は、SALT I（戦略兵器制限交渉 I）と、弾道弾迎撃ミサイル制限協定を進めた。カーター大統領は、SALT II 交渉

を進めた。これは米上院が決して批准しなかったが、執行部局はこれを遵守した。レーガン大統領は、ソ連の指導者ゴルバチョフと冷戦の終結を話し合った。ジョージ・H・W・ブッシュ大統領は、ゴルバチョフの、ドイツの再統一への合意に対する見返りとして、NATOは1インチたりとも東へ移動することはないと約束した。

こうしたすべての努力の成果は、ネオコン化された、ナチス・ドイツに匹敵する犯罪体制であるクリントン、ジョージ・W・ブッシュ、それにオバマ政権によって捨て去られた。

今日、地球惑星上の生命は、最も暗かった冷戦時代よりも、はるかに安全でなくなった。地球温暖化がいかに脅威だといっても、核の冬の脅威に比べれば、はるかに小さい。ワシントンとその従僕政府に集中されている悪が、核戦争を犯したなら、地球の後を継ぐのはゴキブリであろう。

私は、ワシントンによって人格化される横柄、思い上がり、無知、悪から生ずる核戦争の、増大する危険について警告してきた。最近、知識ある4人のロシア系アメリカ人が、ロシアを追い詰め、戦争を脅迫して、従わせようとする結果がどうなるかを警告した（6/7「ロシアの警告」）。

またこれをご覧いただきたい。（<http://www.paulcraigroberts.org/2016/05/28/as-our-past-wars-are-glorified-this-memorial-day-weekend-give-some-thought-to-our-prospects-against-the-russians-and-chinese-in-world-war-iii/>）

洗脳されたアメリカの民衆が、核戦争を防止するだけの道徳的な毅然とした良心、あるいは自分自身の蒸発を防止する知性をすら、もっていると予想してはならない。ウォールストリート・ジャーナルの最近の論文で、Scott Sagan と Benjamin Valentino は、アメリカ人民の59%が、もしイランが米海軍の船を一隻でも沈めたら、核兵器でイランを攻撃すべきだと考えている、と報告している。

<http://www.wsj.com/articles/would-the-u-s-drop-the-bomb-again-1463682867>

共和党員には、民主党員よりも、核兵器によるイラン攻撃を支持する者がはるかに多く、民主党の47%に対して、共和党の核戦争支持は81%だった。しかし民主党は、誰よりも核兵器を使いそうなヒラリーを支持している。何と云っても、マーガレット・サッチャーが“鉄の女”だったように、フェミニズムの影響下にある女性は、自分がいかに強いかを証明しなければならないのである。

アメリカ人と全人類にとって取り返しがつかなくなる前に、傲慢なアメリカ人は、「剣によ

って生きる者は剣によって死ぬ」ことを思い出す必要がある。

経済状態も、同じように暗鬱で将来の希望はない。ごく最近の雇用状態の報告は、噂されているよりもっと酷いものだった。新しい仕事はほとんど創出されていない。しかし、報告にほとんど現れていないのは、この経済が現実には、5万9,000のフルタイム雇用を失くしたという事実である。

アメリカ経済は、ますます多くの、独立した生活を支えきれないパートタイム雇用を取り入れている。だから、ますます多くの19 - 34歳のアメリカ人が、独立して配偶者やパートナーと住むより、両親の家と一緒に住んでいる。25歳のゆうに半数のアメリカ人が、両親の家の昔の子供部屋に住んでいる。

これが、汚れたウソつきの、ネオリベラル・エコノミストたちが称した“新経済”であって、彼らが、アメリカの労働力が、彼らの製造および専門スキルを外国人に手渡したときに、得られる報酬だと約束したのは、これだった。何という恐ろしいウソを、ネオリベラル・エコノミストはついたのか！ それは企業の重役や株保有者が、アメリカの労働者層の生活賃金を、自分のポケットに入れるようにするためだった。これらのネオリベラル・エコノミストと、それに残念なことに、勝手な“自由市場”論者は、借金漬けとなり将来の希望もないアメリカの労働者を、貧困化させた責任を決して問われたことはない。

少しでも気づいている少数のアメリカ人たちは、“1パーセント特権階級”と彼らに仕える西側政府が、封建主義を再構成していることを理解し始めている。聡明で学識ある経済学者マイケル・ハドソンは、我々の時代を、ネオ封建主義の時代と呼んだ。

彼は正しい。アメリカの若者の大多数は、大学を出るときには、重い負債を抱え、借金牢獄に入る状態になっている。25歳の青年の半数が、結婚して家庭をもつこともできないときに、住宅販売や価格が上がりつつあると、誰が信ずることができるだろうか——学生ローンさえ払えない者たちから得られる借家収入を当てにして、投資する投機家たちのためと考える以外には。

アメリカは世界最大の病める国である。どんな重要な問題についても、アメリカの直面する多重の危機についても、アメリカが世界にもたらしている危機についても、いかなる公的または政治的な討論も行われていない。

アメリカの民衆はあまりにも愚かで物を知らないのです、彼らは、ヒラリーのような犯罪者であり戦争屋である者を、米大統領に選んで得意になるほどなのだ。

これらの“タフな”アメリカ人は、“ムスリム・テロリスト”とか“ロシアの侵略”といった、でっち上げの危険を怖がっていて、彼らの弱体化した財産である合衆国憲法を、喜んで犠牲にしてしまった。これは、憲法を保護する責任を完全に放棄した、アメリカ人民の謀反行為である。それと、彼らにあらゆる力をもつ普遍的な警察国家に対する、彼ら自身の自由を失くしてしまった。

かつて誇りをもち偉大であったヨーロッパの人々が、かつて“建国の父たち”から与えられた、自由と安全保障と繁栄を捨ててしまった愚か者の国家から、指導を仰ぐということは、異常なことである。

アメリカの同胞たちよ、もし自分が蒸発を避けようと思うならば、そして我々がそれを避けたとして、奴隷ではない生活を送りたいと思うならば、目を覚まして理解しなければならない——あなた方の最も恐ろしい敵はワシントンであって、“ロシアの侵略”でも、“ムスリム・テロリズム”でもなく、福祉破産国家アメリカという作り事でもなく、民主主義があなたの財産を奪うという作り事でもないことを。——それはすでに、ウォール街と大企業が盗んで、彼らのポケットに入れている。

もしあなたが目を覚まして、この「マトリックス」を抜け出すことができなければ、あなたの終末は、この惑星の終末と一緒にやってくるだろう。